

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・コロナ禍対策の各種キャンペーン効果が絶大で、土日祝における来客数の増加が顕著である。
	◎	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比では総売上が178%、宿泊客数が172%、宿泊単価が103%と大幅に改善しているが、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年との比較では73%の回復で、まだ苦しい経営が続いている。
	◎	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・全国旅行支援により、新型コロナウイルス感染症発生前の110%に近い高水準の稼働率となっている。
	◎	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・国内の団体旅行や海外のインバウンドの戻りはまだだが、新型コロナウイルス感染症の第7波も落ち着き、全国旅行支援も始まったため、国内の個人グループ旅行を中心に来客数が増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・全国旅行支援の影響で平日も多くの客が来店し、売上もほぼ新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っている。高額商品が振るわず低単価なものが爆発的に売れているため、生産が追い付かず商品の入荷が滞っている。
	○	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・11月からプレミアム付商品券が使用され、僅かではあるが良い方向となっている。
	○	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・政府の経済対策で旅行も多くなり、買物に対する意識も高まっているようである。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・ファミリー層の増加や飲食店の利用が回復するなど、来店する客層と利用店舗に変化がみられ、客の様子もふだんの生活スタイルに戻りつつある。また、外出機会も増えてきたとみられ、衣料品や服装品などの物販も回復傾向にある。
	○	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・11月は全国旅行支援や各自治体ごとの消費支援策により、旅行等の外出や商品を購入する動きが高まっている。この動きは12月も変わらず続くとみている。しかし、それに伴い新型コロナウイルスの新規感染者数も増加し、比較的多い状態で推移しているため、1月以降は不透明である。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・全国旅行支援により、12月20日までの予約状況はほぼ満室が続いている。
	○	旅行代理店（従業員）	それ以外	・秋になり、数は少ないが団体旅行が動き出しており、その分の売上が底上げされている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今月中旬から新型コロナウイルスの新規感染者数が徐々に増えてきている。一方で当地では観光客も増えてきており、皆注意をしながら対応している。夜の街の人出もまずまずで、客が出ている状態である。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・前月と同程度で観光や会社の営業、研修などといった送迎の仕事が入っている。
	○	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・物価の上昇や金利の上昇懸念によって様子見の感はあるが、一部の人はこの状況を考慮に入れて、建築資材の価格高騰等もはかりに掛けながら動き出している気配がある。
	□	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残るが、前年と比べれば一定の来客数がある。しかし、全国旅行支援が始まり、客の目が家の中から外に向き始め、旅行を含めて外出を楽しむ傾向となり、物の消費に意識が向いていない。ここ数年好調だったパジャマなどが低迷し、僅かだがバッグや靴など外出用商品の動きが堅調である。しかし、商品価格の高騰が要因か購入は非常に慎重で、好調な商品だけで売上全体を押し上げるほどのパワーはない。
	□	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・物価高のため、客に買い控えの様子がみられる。
□	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・自店を含め近隣の競合店の実績をみても、来客数の前年割れが継続している。また、値上げも止まる気配はなく、F1層と呼ばれる20～34歳の女性は、ドラッグストアや業務用スーパーに更に流れる傾向が強くなっている。	
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価の上昇が続き実質賃金が減少しているため、客は商品購入に慎重である。	

□	衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・景気は上向きのようなのだが、物価高や電気代などの公共料金の値上げに鑑みると、顕著に上向いているとはいえない。
□	家電量販店(本部)	販売量の動き	・売上、来客数共に前月と状況が変わらない。
□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・中古車は価格上昇で引き合いが多いが、新車販売はメーカーの生産調整があり、なかなか良くならない。しばらくはこの状態が続くと考える。
□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・引き続き、過去に受注分の車が順次メーカーより配車されて売上になっているため、前年を超える実績となっている。
□	自動車備品販売店 (役員)	お客様の様子	・冬季用品の需要月だが来客数は前年割れで、冬用タイヤの装着も例年より遅くなっている。車の乗換えを検討していた客は、納期が掛かり中古車相場も高くなっているため購入を断念し、今の車を安価なタイヤに入替えて乗り続けるということである。冬用タイヤの新規購入が減少しているため、装着率も上がっていない。
□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・来客数が下がったまま戻らない。週末の来客数も増えない。
□	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・相変わらず暇である。来月はお歳暮の時期になるため、少し良くなることを期待している。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・全国旅行支援もあり、久しぶりにランチもディナーも県外からの団体客を集客しているが、新型コロナウイルス感染症発生前と比較すると来客数は80%にすぎない。
□	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・売上は新型コロナウイルス感染症発生前と比べ徐々に戻ってきているが、新型コロナウイルス感染症の第8波の兆しがみえてきており、再び団体旅行需要の回復に陰りがみえ、会社関係の宴会のキャンセルが出てきている。
□	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新商品が発売された翌月だが、今までのように店頭に来店して購入する客が減ったと感じる。オンライン購入の相談も多く、来客数はあっても操作説明やプランの相談が多いため、販売に結び付きにくい。
□	通信会社(役員)	販売量の動き	・3か月前から引き続き、通信、放送サービス共に新規契約者数が前年同月から増加で推移している。
□	通信会社(役員)	販売量の動き	・新規契約獲得数の伸び悩みが継続している。
□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ](総支配人)	お客様の様子	・コロナ禍の影響をいまだに引きずっており、新型コロナウイルス感染症発生前のような積極性はみられない。そのため現状では新規会員が増える時期であっても、入会数がほとんど伸びない。
□	美容室(経営者)	それ以外	・今月の売上と来客数はほぼ前年並みであるが、県内でも第8波による新型コロナウイルスの新規感染者数が次第に増えてきている。12月の繁忙期の売上が少々心配である。
□	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・新規展示会場がオープンしたが、来場者数が前年と比較しても減少している。
□	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・低調な来客数に変化が全くない状況である。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・とにかく人出が少ない。新型コロナウイルス感染症や社会情勢の影響か、周辺で行われている大規模な再開発工事が本格化したからか、何が原因か分からないほど減少している。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第8波や物価の上昇に対し、給料など収入が増える要素がなく厳しい。少し動きが出てきているとみていたが、良くなる前に次の悪い面が出てきてしまう。いろいろな補助がうたわれているが、長続きしないようにみえる。
▲	一般小売店[書籍] (従業員)	来客数の動き	・前月、前々月同様、来客数と販売量の減少が続き、売上も大きく落ちている。

	▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・10月の全国旅行支援スタートから、消費者の関心は旅行や観光にシフトしている。9月までは、海外はもとより首都圏や関西、中京圏への外出を控えていたこともあり、当店はラグジュアリーブランドの購入など富裕層の消費による恩恵を受けていたが、旅行需要の再開とともに10月中旬以降は売上の伸び率が鈍化している。
	▲	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・光熱費や生活必需品の高騰により節約志向が強くなり、お歳暮や婦人服の買上に影響が出ている。お歳暮や婦人服は前年から約10%売上がマイナスになる見通しである。反面、外商客である富裕層を中心にブランドジュエリーや高額時計などは根強い動きがある。
	▲	スーパー（店長）	競争相手の様子	・当店の売上は2けたの伸びで推移している。競合店は安価に出すのが厳しくなっており、その分当店は价格的に優位に立っている。商品価格が上昇しているため、客は無駄な商品を買わなくなっている。
	▲	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・地域のキャッシュレス・消費者還元事業も後半に差し掛かり、来客数、販売量が顕著に減少している。自社の販促企画だけでは改善できない。
	▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・必需品以外を購入する動きがない。
	▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・現在商談中の客が検討する住宅ローンは、長期固定型が多くなってきている。金利の先高感が強くなってきたようである。
	×	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大のため、来客数が減っている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は8日間ほど休業したため正確なことは言いえないが、若い人が駅前周辺に出ているようである。当店周辺は人影が余りなく、サッカーワールドカップが始まったことで、真つすぐ帰宅する人もおり、悪い状態である。
企業 動向 関連  (北陸)	◎	—	—	—
	○	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が少しずつ増加している。
	○	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況が全体的にやや上向いている。
	○	税理士（所長）	取引先の様子	・飲食業の売上が新型コロナウイルス感染症発生前近くまで戻っており、新型コロナウイルス感染症に関係なく人が出ているようである。人が動いているため、小売業やサービス業、車関係も良い流れになっている。建設業は継続的に受注量を確保しているが、資材価格が上がっているため、価格に転嫁できている企業は良いが、できていない企業は粗利率が下がっている。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・売上は市販用、業務用共に前年同月を上回って推移しているが、原材料を始めとする様々なコストアップにより、増収減益傾向となっている。
	□	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・アウトドアやスポーツ関連を中心に受注は引き続き堅調で、国内ファッション衣料や自動車関連にも明るい兆しがみられる一方で、原材料価格の高騰、特に電気料金の値上げが深刻さを増している。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足や資源エネルギーコストの上昇、原材料価格の高止まりの影響は大きく、回復に足踏み状態が続いている。
	□	建設業（経営者）	それ以外	・繁華街の客足は少ないままで、タクシーや代行運転の運転手によると、皆景気は悪いままであると話している。
	□	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫や国際関連は好調だが、国内の輸送部門の回復が遅れている。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量	・受注量は一定で、特段の変化はないと考える。
	□	金融業（融資担当）	取引先の様子	・コロナ禍の影響は落ち着いてきており、取引先は営業や販売強化の動きをしている。その一方で、原価や経費が増加しており、業況は余り変わっていない。

	□	司法書士	取引先の様子	・太陽光発電事業や私募債発行、大規模な事業用借地権設定といった大型案件がある一方、解散や清算の依頼も多くなっている。
	▲	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は堅調であるものの、円安などによる資材の高騰が利益を圧迫している。また、人手不足により生産がなかなか追いつかず、販売量が少し落ちている。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近、業者間で活発な話が聞けなくなっている。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(北陸)	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・大きな変動はみられない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・広告掲載の申込状況などは、6か月前から3か月前にかけて復調の兆しがあった。イベント関連やディーラー、買取業者や外壁工事などから安定して出稿があり、直近3か月は状況に大きな変化はない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・良いも悪いも、特段の変化はないと考える。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・最近の求人状況は、短期間や短時間の仕事を希望する高齢者はいるが、企業の望む長期安定的な若年求職者が集まらない。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・半導体関連の取引先で、部品の調達ができないことから生産のめどが立たず、求人募集の停止や派遣契約の解除通達が出てきている。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・飲食、宿泊関係の事業所の伸びが余り良くない。特に新型コロナウイルス感染症の状況がわからないこともあり、伸び悩んでいるようである。
	×	—	—	—